

■朝日新聞 平成25年12月25日朝刊掲載 ■朝日新聞社提供

※この画像は、当該ページに限って朝日新聞社が利用を許諾したものです。

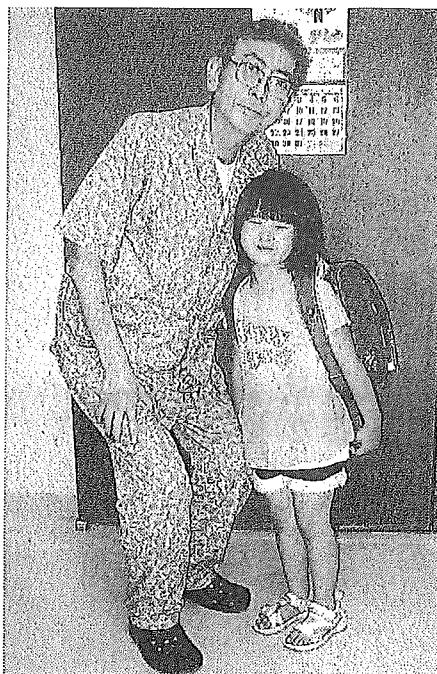
※掲載については、ご家族からも承諾を頂いております。

# がんの父、感謝の最期

## 松丘保養園初の一 般患者長女が思 い語る

ハンセン病の元患者が入所し、100年以上の歴史がある青森市石江の国立療養所「松丘保養園」で今年7月、元高校教師の男性が初めて一般患者として入院した。入所者らが目指す「地域との共生共生」の大きな一步となった。患者の家族がそのいきさつを語ってくれた。

末期がんで入院した故高木達さん（左）。来春、小学生になる孫のあゆひちゃんにランドセルを贈り、初お披露目後に撮った（7月24日、青森市の松丘保養園、家族提供）



### 木造高校元校長の故高木さん

2009年に施行された  
ハンセン病問題基本法で、  
国内13療養所は入所者以外  
の利用も可能となつた。厚  
生労働省によると、現在は  
6施設が受け入れを実施。

2009年に施行された  
ハンセン病問題基本法で、  
国内13療養所は入所者以外  
の利用も可能となつた。厚  
生労働省によると、現在は  
6施設が受け入れを実施。

2009年に施行された  
ハンセン病問題基本法で、  
国内13療養所は入所者以外  
の利用も可能となつた。厚  
生労働省によると、現在は  
6施設が受け入れを実施。  
そのうち、退所者や元患者  
に限定せず、一般患者を受  
け入れているのは、松丘保  
養園を含む3施設だけだ。  
松丘は内科の患者を対象  
に今年6月から受け入れを

開始。青森市の高木達さん  
が初の一般患者となつた。  
「余生は緩和ケアで過ご  
したい」——3度目のがん  
として長年勤め、木造高校  
(つがる市)の校長だった  
西谷さんは、110歳で亡くな  
った。末期がんだつた。

高木さんは県立高校教諭  
として長年勤め、木造高校  
(つがる市)の校長だった  
06年、定年退職した。しか  
し、その後はがんに苦しめ  
られた。07年に妻を乳がん  
で亡くし、自身も11年11月  
に食道がんが発覚。治療後  
の昨年12月には肺、今年5  
月に副腎への転移が判明し  
入れるところがある」と紹

介されたのが松丘保養園だ  
つた。高木さんはすぐに入  
院を決めたという。  
敷地内に入ると、高木さ  
んは「懐かしいな」と家族  
に語つたという。若いこ  
ろ、赴任した大湊高校（む  
つ市）で野球部顧問をして  
おり、県大会の練習場所と  
して部員を連れて敷地のグ  
ラウンドを使っていたのだ  
という。まだ、ハンセン病  
への差別や偏見が強くあつ  
た時代。意にも介さなかつ  
たことがうかがえる。

ほぼ毎日、看病に訪れた  
西谷さんは、初めは110  
人いる入所者に遠慮もあつ  
たが、次第に敷地を出歩く  
ようになつた。子ども3人  
を連れてくることもあつ  
た。

約24万平方㍍の木々が生  
い茂る広大な園内を散策す  
るうち、入所者とふれあう  
機会も増えた。「部外者」  
の西谷さんに驚く様子も  
なく気軽に接してきたとい  
う。菜園ではトマトをもら  
い、「子どもを見るのは久  
しぶり」と喜んだ表情で声  
をかけてくれたという。

入院から約2週間後、高  
木さんは字も書けない状態  
になつた。死を悟つた  
口頭で伝え、書き留めても  
らつた。

それから約1カ月を過ぎ  
し、市内の緩和ケア施設に  
転院。その4日後の8月29  
日、静かに息を引き取つ  
た。67歳だった。

松丘保養園の川西健登園  
長は「施設の歴史的背景や  
現状をよく理解し、初の一  
般患者になったことを『誇  
りだ』と喜んでおられたこ  
とは、私たちにとってもあ  
りがたかった」と話す。

9月2日、教え子ら約3  
00人が集まつた通夜で、  
喪主を務めた西谷さんは、  
父が最期に託した言葉を読  
んだ。幼稚園から大学まで  
の各時代に出会つた友人、  
学校関係者——多くの感謝  
の言葉を述べた中で、最初に伝  
えた思いはこうだつた。  
「松丘保養園の園長はじ  
め、スタッフのみなさまに  
は大変お世話になりまし  
た」